

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。
組合員及び地域住民の皆様とともに輝かしい新年を迎えられたことに謹んでご祝詞を申し上げます。

日頃より農協の各事業におきましては、格別なるご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、6月の大阪北部地震から7月の豪雨、それに猛暑、9月の台風21号、そして北海道胆振東部地震など、甚大な自然災害が発生した年でありました。被害を受けられた皆様によりお見舞い申し上げます。

国内経済は、緩やかに回復していると考えられるものの、長引く低金利政策の出口は見え、金融界を中心に今後更なる影響が避けられない状況が続き、景気回復には不透明な面が見られます。

一方、農業を取りまく情勢については、就農人口の減少や生産農家の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加等の諸問題



相馬村農業協同組合

代表理事組合長 三上道廣

に直面している中、JA自己改革の取組みとして「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現にむけ、営農、経済事業を中心に取組んでいるところです。

このような中、当JAの主力作物である、りんごについては春先の天候に恵まれ、開花量の多かったことから順調に生育したものの、黒星病の発生面積が増加し、薬剤防除を2回ほど多くし薬剤費の増加する傾向となりました。

また、9月からの度重なる台風被害により一部落果被害や、樹上損傷被害の発生が多く見られました。そのような中、当JAの入庫数量は753,053箱（前年比109%）となり組合員のJAに対するご協力に改めて感謝申し上げます。

また、稲作については6月の分けつ時の低温により茎数が少なく、加えて8月の開花期の低温による登熟のバラツキが生じ、自主流通米4,356俵、（前年比80%）という結果となりました。

りんごの販売については、早生種のがら及びトキについては順調に販売されましたが、量販店の売価が高く、消費者の買い控えが影響を及ぼしたことに加え、他果実との競合により価格が停滞しました。

年明け以降の販売に期待するわけですが、競合する柑橘類全般に表年で比較的によく、食味もあり値ごろ感となっていることから、樹上損傷等下位等級品の発生が多い内容となっている中で、消費形態は先行き不透明となっております。主力のサンふじを中心にキャンペーン等による消費拡大を図り、高値販売に取組んでまいります。

近年、農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中、組合員の期待に応えるとともに、高齢化対策を最優先課題として取組んでまいります。

本年は大きな災害の無いことと、組合員及び地域住民の皆様が健やかで笑顔に暮せることを願い新年のあいさついたします。



代表理事組合長

三上 道廣

専務理事

大場 勉

理事金融共済部長

花田 敏幸

理事総務委員長

福島 憲一

理事総務委員

田澤 俊則

理事総務委員

満江 徹

理事りんご委員長

花田 勇人

理事りんご委員

三上 隆基

代表監事

山内 知人

監事

藤田 伸

員外監事

盛 浩一

他職員一同